

書道体験 高校生と交流



光星高の生徒(右から2人目)に書道を教わるマレーシアの学生

マレーシアの大学生 光星高訪問

八戸

日本に関心を持つマレーシアの大学生ら23人が2日、八戸学院光星高(小野崎龍一校長)を訪れ、高校生らと交流しながら書道体験を通して日本文化への理解を深めた。(玉川那津美)

農家にホームステイも

日本政府が進める対日理解促進交流事業「JENESYS(ジェネシス)2017」の一環。政治や社会、歴史などの理解を図り、日本の魅力を発信することを目的としている。

一行は1〜4日の日程で八戸市を視察したほか、南部町の農家でホームステイをした。

2日は、八戸市の「はっち」を見学した後、同校を訪れた。歓迎会では、小野崎校長が「今回の経験が友好の発展につながれば」とあいさつ。

続いて、書道部顧問の宮古博文教諭と1年生4人に教わりながら書道を体験した。学生は「愛」「平和」「青森」などと書いた手本を基に真剣な表情で筆を動かしていた。

エディ・チューさん(24)は「中国系の家系なので漢字を書くのは慣れていたが、日本語は新鮮。丁寧に教えてもらって楽しかった」と話していた。